

No. 15	なごや水の環(わ)復活プラン																										
計画の概要	<p>①計画名、策定年月：なごや水の環(わ)復活プラン、平成19年2月</p> <p>②対象流域または対象行政区界：名古屋市全域</p> <p>③策定の枠組み：策定主体 名古屋市環境局公害対策部公害対策課 検討主体 なごや水の環(わ)復活推進会議 検討期間 平成16年8月～平成18年9月</p> <p>なごや水の環(わ)復活推進会議 委員名簿</p> <p>学識経験者</p> <table border="1" data-bbox="446 660 1316 1075"> <thead> <tr> <th>氏名</th> <th>職業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>奥田 隆明</td> <td>名古屋大学大学院助教授</td> </tr> <tr> <td>奥谷 順彦</td> <td>(社)雨水貯留浸透技術協会 技術アドバイザー</td> </tr> <tr> <td>萱場 祐一</td> <td>独立行政法人土木研究所主任研究員</td> </tr> <tr> <td>◎ 大東 憲二</td> <td>大同工業大学工学部都市環境デザイン科教授</td> </tr> <tr> <td>原田 守博</td> <td>名城大学理工学部建設システム工学科教授</td> </tr> <tr> <td>牧野内 猛</td> <td>名城大学理工学部環境創造学科教授</td> </tr> <tr> <td>松尾 直規</td> <td>中部大学工学部都市建設工学科教授</td> </tr> </tbody> </table> <p>(◎は「なごや水の環(わ)復活推進会議」座長)</p> <p>行政委員</p> <table border="1" data-bbox="446 1243 1316 1758"> <thead> <tr> <th>役職名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総務局企画部主幹(水に係る施策の調整)</td> </tr> <tr> <td>住宅都市局都市計画部都市計画課長</td> </tr> <tr> <td>住宅都市局開発調整部開発調整課長</td> </tr> <tr> <td>緑政土木局主幹(企画)</td> </tr> <tr> <td>緑政土木局河川部河川計画課長</td> </tr> <tr> <td>上下水道局技術本部計画部水道計画課長</td> </tr> <tr> <td>上下水道局技術本部計画部下水道計画課長</td> </tr> <tr> <td>環境局環境都市推進部環境都市推進課長</td> </tr> <tr> <td>環境局公害対策部公害対策課長</td> </tr> </tbody> </table>	氏名	職業	奥田 隆明	名古屋大学大学院助教授	奥谷 順彦	(社)雨水貯留浸透技術協会 技術アドバイザー	萱場 祐一	独立行政法人土木研究所主任研究員	◎ 大東 憲二	大同工業大学工学部都市環境デザイン科教授	原田 守博	名城大学理工学部建設システム工学科教授	牧野内 猛	名城大学理工学部環境創造学科教授	松尾 直規	中部大学工学部都市建設工学科教授	役職名	総務局企画部主幹(水に係る施策の調整)	住宅都市局都市計画部都市計画課長	住宅都市局開発調整部開発調整課長	緑政土木局主幹(企画)	緑政土木局河川部河川計画課長	上下水道局技術本部計画部水道計画課長	上下水道局技術本部計画部下水道計画課長	環境局環境都市推進部環境都市推進課長	環境局公害対策部公害対策課長
氏名	職業																										
奥田 隆明	名古屋大学大学院助教授																										
奥谷 順彦	(社)雨水貯留浸透技術協会 技術アドバイザー																										
萱場 祐一	独立行政法人土木研究所主任研究員																										
◎ 大東 憲二	大同工業大学工学部都市環境デザイン科教授																										
原田 守博	名城大学理工学部建設システム工学科教授																										
牧野内 猛	名城大学理工学部環境創造学科教授																										
松尾 直規	中部大学工学部都市建設工学科教授																										
役職名																											
総務局企画部主幹(水に係る施策の調整)																											
住宅都市局都市計画部都市計画課長																											
住宅都市局開発調整部開発調整課長																											
緑政土木局主幹(企画)																											
緑政土木局河川部河川計画課長																											
上下水道局技術本部計画部水道計画課長																											
上下水道局技術本部計画部下水道計画課長																											
環境局環境都市推進部環境都市推進課長																											
環境局公害対策部公害対策課長																											

検討経緯（会議等）

日程	会議名	主な検討事項
平成16年8月	第1回なごや水の環(わ)復活推進会議	推進会議の設置について
12月	第2回なごや水の環(わ)復活推進会議	検討の枠組みについて
平成17年1月	第3回なごや水の環(わ)復活推進会議	水収支の考え方について
3月	第4回なごや水の環(わ)復活推進会議	水収支について 名古屋の水に関わる課題について
6月	第5回なごや水の環(わ)復活推進会議	プランの基本方針について
7月	市政アンケート実施（テーマ「名古屋の水と緑について」）	
9月	第6回なごや水の環(わ)復活推進会議	水収支について 計画目標と施策について
10月	第7回なごや水の環(わ)復活推進会議	水収支について 計画目標と施策について
平成18年1月	第8回なごや水の環(わ)復活推進会議	プラン（素案）について
3月	第9回なごや水の環(わ)復活推進会議	プラン（案）について
7月	パブリックコメントの実施（意見提出者数：119名、意見数：205件）	
9月	第10回なごや水の環(わ)復活推進会議	パブリックコメントの結果について

策定の背景、目的

①背景

『これまで、河川、地下水、上下水道や緑について、関係部局がそれぞれの目的に沿って対策をすすめていました。「なごや水の環（わ）復活プラン」では、これらの対策を水循環の視点から捉えます。そして、水の環復活に向けた構想とします。』

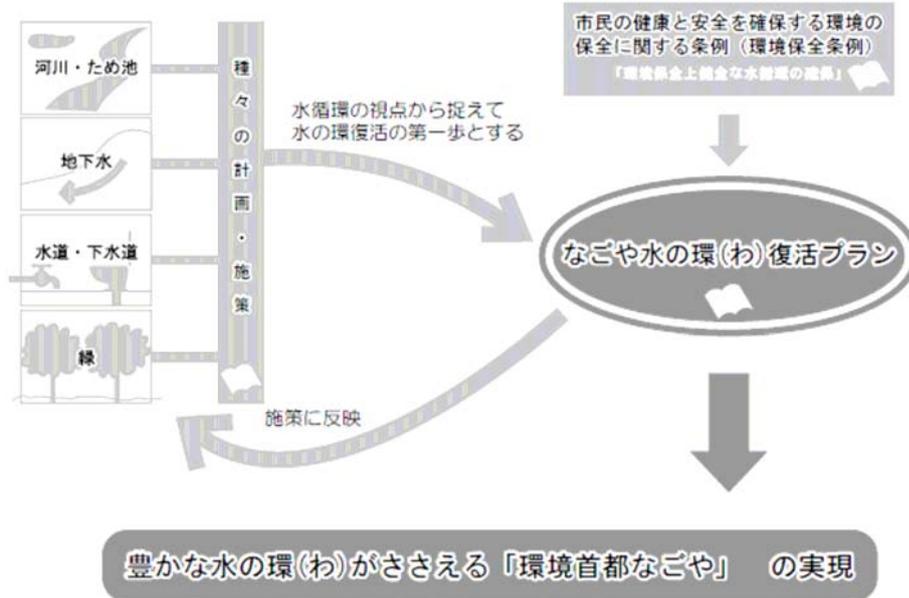
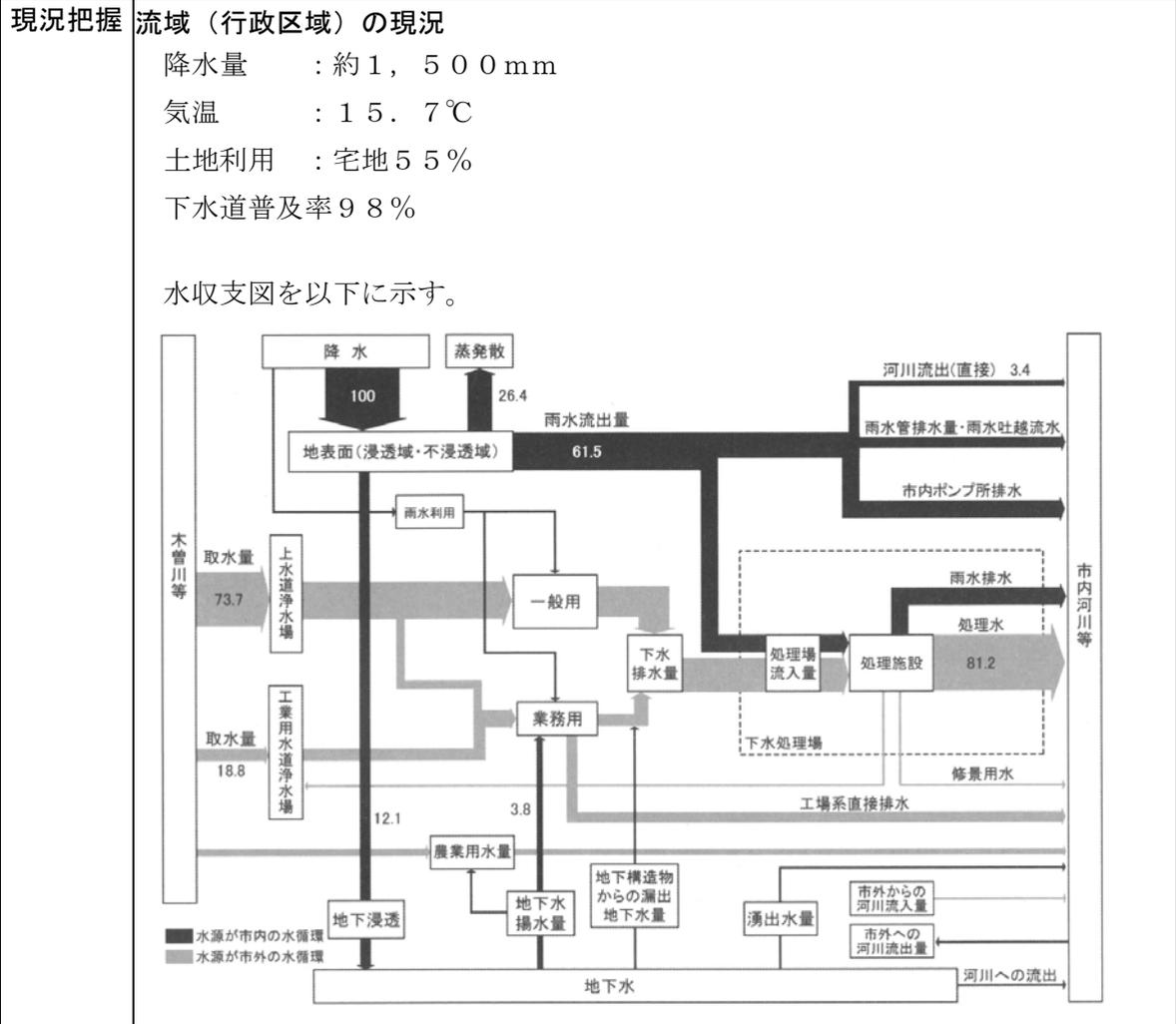


図 1-1 水の環(わ)復活プランの位置付け

②計画の基本理念・目標

『なごや水の環（わ）復活プランでは、人の活動と水循環の調和を考えながら、損なわれた水の環を復活することで、これらの問題を解決し、豊かな水の環（わ）がささえる「環境首都なごや」の実現をめざします。』



課題 ①水環境

『・地下水のかん養量の減少
 都市化の進展で不浸透面積が拡大したことにより、地下に浸透する雨水が減少しています。地下水かん養量を増加させることが重要です。

- ・湧水・湧水地の減少
 湧水地周辺の開発や地下に浸透する雨水の減少により、湧水地の消失や湧水量の減少が起っています。湧水地の保全が必要です。
- ・河川の平常時流量の減少
 市内河川の平常時流量が全体に減少傾向にあります。また、河川やため池では水質が不十分なところもあります。そのため、水量を増やしたり、水質を改善する必要があります。
- ・水域面積の減少
 農地の減少とともにため池や農業用水路などが減少し、身近な生き物が見られなくなっています。生態系の保全やヒートアイランド現象緩和のために、ため池や水路などの水辺を保全していくことが重要です。
- ・雨水の蒸発散量の減少
 水面や緑の減少に伴い、都市の水の蒸発散量が減少し、ヒートアイランド現象の一因となっています。ヒートアイランド現象緩和のために、蒸発散量を増加させることが重要です。』

課題	<p>②都市生活</p> <p>『・雨水の表面流出量の増加</p> <p>都市化の進展で不浸透面積が拡大したことにより、降った雨は地表を流れて、下水道へ流入し、下水処理の負担を増やしています。また、直接河川へ一斉に流れ出すことで洪水の危険性が増しています。そこで、雨水の表面流出量を削減することが重要となります。</p> <p>・合流式下水道の改善</p> <p>名古屋では、古くから下水道が整備され、市域の約6割が合流式下水道で整備されています。合流式下水道は、ある一定以上の雨が降ると雨水とともに、汚水が河川に流れ出てしまうことがあります。河川の水質を向上させるために、合流式下水道の改善が必要です。</p> <p>・都市の未活用な水資源</p> <p>市内に降る雨やビルの地下に漏出する地下水、下水再生水は都市の中では限られた貴重な水資源ですが、あまり活用されていません。これらの水資源を活用することも必要です。</p> <p>・ヒートアイランド現象</p> <p>都市化の進展によって、気候緩和機能の高いまとまりのある緑や、その連続性が失われ、ヒートアイランド現象が進んでいます。ヒートアイランド現象緩和の対策が必要です。</p> <p>・水や動植物との関わり</p> <p>農地の減少とともにため池・農業用水路などの水域が減少し、水辺に生息する多くの動植物が見られなくなってきたことから、都市の暮らしの中では、水や動植物との関わりが希薄になっています。水や動植物との関わりの回復を図ることが必要となっています。</p> <p>・水辺や緑の保全への意識</p> <p>市政アンケートでは、河川などの水質改善や維持管理、街の緑の保全や維持管理のために協力することについて、「特にない」や「わからない」といった協力的に消極的な意見が多くありました。水辺や緑を守るのは市民一人ひとりの行動が必要です。そこで、市民の水辺や緑の保全への意識の向上を図ることは重要となっています。</p> <p>・災害時の生活用水の確保</p> <p>現在、一般家庭や工場の井戸を災害用応急井戸として登録し、災害時の協力を求めています。しかし、停電時には使用が困難になることも予想されます。停電時にも対応できる災害用応急井戸が必要となります。』</p>
----	--

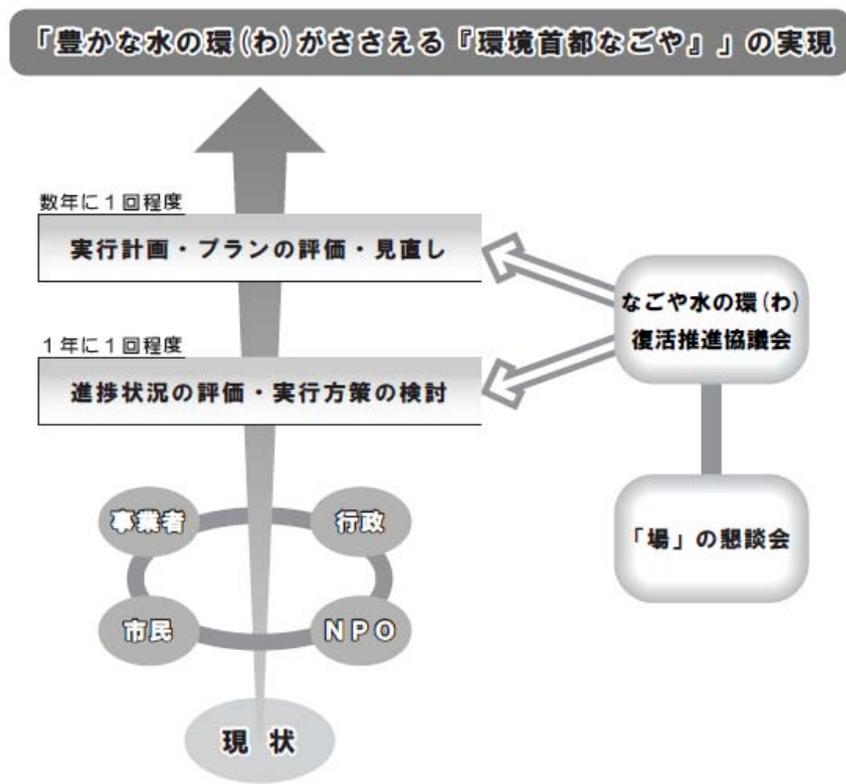
<p>対策の方針</p>	<p>対策の基本方針</p> <p>『プランの理念である「豊かな水の環(わ)がささえる『環境首都なごや』の実現に向けて、名古屋市の「水」と「緑」と「人」についての様々な関わりを念頭に置き、次の3つの基本方針を掲げます。</p> <p>1) 水循環機能の回復</p> <p>雨水の地下浸透機能が低下した市域において水の環を復活し、浸透機能や水質浄化機能、水や緑による蒸発散機能などを十分に発揮することで、水環境(水量、水質、水生生物、水辺の保全)と地盤環境を良好に保つとともに、ヒートアイランド現象の緩和をめざします。</p> <p>2) 人にも生き物にもやさしい水辺や緑がある街づくり</p> <p>都市化によって、ため池や水路、緑が減少し、水辺に生息する多くの動植物が見られなくなりました。また、水辺や緑は人々の心に安らぎを与えてくれます。そこで、水と緑のつながりを重視し、魅力のある水辺など人にも生き物にもやさしい水辺や緑がある街をめざします。</p> <p>3) パートナーシップによる水の環の復活</p> <p>都市化が進み、市内の水辺や緑の減少に伴って、生活の中で水や緑にふれあう機会が少なくなり、それを守り育てる気持ちも希薄になっています。そこで市民・NPO・事業者・行政がお互いの役割を理解し協働して水の環の復活をめざします。』</p>
<p>具体的対策の概要</p>	<p>① 具体的対策の概要</p> <p>右図のような現状と対策をイメージしている。</p> <p>現在は、暮らしは便利で豊かになりましたが、緑や生き物が減ってきました。また、地面はアスファルトなどに覆われて、雨水は地面にしみこまなくなり、湧水が涸れたり、ヒートアイランド現象などの問題が起こっています。</p> <p>将来は、雨水浸透施設などにより雨水の地面にしみこむ量を増やしたり、緑を増やすことにより、湧水の回復や自然の木々が持つ蒸発散の力によるヒートアイランド現象の緩和などを目指します。</p>

- 1) 豊かな地下水・湧水をとりもどしましょう
 - ・ 雨水浸透施設等の設置
 - ・ 湧水地の保全
 - ・ 浅層地下水の導入
- 2) 魅力ある水辺環境をつくりましょう
 - ・ 合流式下水道の改善
 - ・ 下水再生水などの活用
 - ・ 水辺環境保全・整備
- 3) 水と緑のネットワークをつくりましょう
 - ・ 緑地などの保全
 - ・ 敷地内緑化の推進
 - ・ 雨水の環境用途への利用
- 4) みんなで水の環の回復に取り組みましょう
 - ・ 市民・NPO・事業者・行政の連携
 - ・ 環境学習
 - ・ 市民による水質調査
 - ・ 打ち水大作戦などの活動

②関係主体の連携（推進体制）

推進体制：なごや水の環（わ）復活推進協議会

参加主体：学識経験者、市民代表、行政の各部局



策定時の
住民の関
わり

①住民アンケート

策定の間時点市政アンケートを実施している(テーマ「名古屋の水と緑について」)。

②パブリックコメント

計画案完成時点でパブリックコメントを実施し、119名、205件の意見が提出されている。